

別海中央ジュニアイーグルス 全道大会出場



7/25

「第51回全道少年軟式野球大会」(7月29日から8月3日札幌市)に臨む別海中央ジュニアイーグルスの選手11名が、副町長と教育長を表敬訪問しました。

チームを代表して、主将の岩浅選手から大会への意気込みなどが語られました。

別海陸上少年団全道大会出場



7/13、8/2

「第40回北海道小学生陸上競技大会」(7月24日苫小牧市)に臨む別海陸上少年団の選手16名が副町長と教育長を表敬訪問し、選手一人一人から大会への意気込みが語られました。

大会終了後には入賞した3名の選手が再度訪問し、大会での感想や今後の目標などを報告しました。

■大会結果

- 沼倉 菜里 選手
5年女子ジャベリックボール投げ 35m70 (第3位)
- 前田 柚葉 選手
6年女子ジャベリックボール投げ 36m01 (第7位)
- 川原 優希奈 選手
5年女子100m 14秒56 (第8位)



戦没者追悼式

8/15

終戦記念日である8月15日に生涯学習センターみなくで「別海町戦没者追悼式」が執り行われました。

式典には、過去の大戦で尊い犠牲となった戦没者の遺族など29人が出席し、町長が追悼の辞を述べた後、参列者全員が祭壇に献花し、戦没者の冥福を祈り恒久平和の思いを新たにしました。

長寿90歳 おめでとう

※承諾された方のみ氏名を掲載しています。

町内在住で90歳を迎える方を祝う「別海町長寿賞」が次の方に贈られました。

- ・大畑 英一さん (昭和7年7月6日・上春別)
- ・岩崎 静子さん (昭和7年7月23日・泉川)
- ・坂下 竹雄さん (昭和7年7月27日・尾岱沼)
- ・細川 三郎さん (昭和7年7月28日・尾岱沼)
- ・中洞 善博さん (昭和7年7月30日・上春別)

別海町町民栄誉賞・別海町奨励賞



8/1

第24回冬季オリンピックにスピードスケート日本代表として出場し、500メートルで見事に銅メダルを獲得された、森重航さん(上風連出身)が「別海町町民栄誉賞」を受賞されました。

また、2020年ワールドカップにおいて総合優勝、その後も数多くのメダルを獲得し、冬季オリンピックにスピードスケート日本代表として出場された、新濱立也さん(尾岱沼出身)が「別海町奨励賞」を受賞されました。

役場応接室で行われた授与式では町長から表彰盾と記念品が贈られ、森重さんは今後の決意を述べ、都合により出席できなかった新濱さんからもメッセージが寄せられました。

別海町町民栄誉賞は平成10年の楠瀬(現：森野)志保さん、平成30年の郷亜里砂さん以来3人目の受賞、別海町奨励賞は新濱立也さんが初めての受賞となり、広く町民に敬愛され、町民に夢と希望と活力を与えることに顕著な功績があった方、特に文化・スポーツなどの分野において輝かしい活躍をされた方に贈られるものです。



交通安全街頭啓発の実施



7/13

別海町交通安全協会西春別駅前分会が、地域の交通安全意識を高めるために、ドライバーに対して旗波運動を行いました。

友好都市青少年ふれあいの翼



8/1~5

友好都市である大阪府枚方市との交流を行なうため、16名の中学生と引率者が大阪府枚方市を訪問しました。

中学生による友好都市訪問は、平成5年から実施していますが、今回枚方市を訪問した中学生は、自然や歴史、産業など、さまざまな体験を通して交流を深め、友好都市理解に取り組みました。

第69回写真道展巡回展 第44回中央公民館まつり「お茶会」



第69回写真道展巡回展を生涯学習センターみなくで開催しました。

道内各地から寄せられた3,390作品の中から選ばれた、入賞・入選作品306点が展示され、北海道の産業や豊かな自然を捉えた輝きに満ちた力作が並び、道内写真コンテストの最高レベルとして注目されました。

また、第44回中央公民館まつり「お茶会」が同時開催され、雲心会の会員5名にご協力をいただき、来場された方々はおいしそうにお茶を啜（すす）んでいました。

別海中央中学校 中体連全道大会出場

7/20

中体連全道大会に臨む別海中央中学校の選手21名が、町長と教育長を表敬訪問しました。

今回出場するのは、野球部、バレーボール部、卓球部、陸上競技部、水泳部、剣道部です。訪問時には、各部活の主将から大会への意気込みが語られました。



第44回中央公民館まつり「作品展」

7/15~17

第44回別海町中央公民館まつり「作品展」を、生涯学習センターみなくで開催しました。

別海地区から599名の方が出展され、丹精込めて作られた作品はどれも素晴らしい出来栄でした。



第29回原爆写真展

7/29、30

本年度29回目の開催となる「原爆写真展」（原爆展実行委員会主催）が西公民館で開催され、延べ41名の町民の方が訪れました。

来場者で広島出身の90代の男性は当時を振り返り「被災して近郊の町村に避難していく人たちを見ていて、酷い火傷を負い、家財道具を大八車に積み、たくさんの方が避難し、酷いものだった。若い世代に伝わって欲しい。」と戦争の悲惨さを語っていました。

